



## Vol.5 広島市薬剤師会レポート

# 薬とうまく付き合って 健康と安心を!

病状を緩和させ、痛みを和らげてくれる薬に対してもっと理解を深めることは、自分の身体と生活を守る上で大切です。今回は、ジェネリック医薬品についてご紹介します。

### ジェネリック(後発) 医薬品って?

医薬品は大きく分けると2種類あり、薬局・薬店で薬剤師と相談しながら買求める「**一般用医薬品**」と、医師から処方される「**医療用医薬品**」があります。「**医療用医薬品**」にはさらに2種類あり、大変な時間とコストをかけて研究・開発される「**新薬**」と、特許が切れた後に開発メーカー以外にも製造・販売が認められる「**ジェネリック医薬品**」があります。

新薬の開発費は150〜200億円から、開発期間も10〜15年かかると言われています。これに対してジェネリック医薬品の薬価(国が定めている医療用医薬品の価格)は、新薬の約4〜8割と言われ、成分・品質が新薬と同等であることを証明するテストをクリアすれば、低コストで生み出すことができます。近年、急にジェネリック医薬品が目立つようになったのは、バブル崩壊後の長引く不況の中で、健康保険財政の破綻に直面し、政府が少子高齢化を迎えるのを医療費削減を唱え、その環として薬価の低い後発医薬品に着目したためです。

### 日本でジェネリック医薬品が普及しない理由

他の先進国に比べて、日本では普及が進んでいないのが実情で、昨年7月のシェア率は全国で27.9%(数量ベース)に過ぎませんでした。普及しない理由として次のような問題点が指摘されています。

- ①日本人のブランド志向  
医師も患者も薬のブランド志向が強いといわれており、同じ成分の薬でも新薬メーカーのものが好まれる傾向にあります。
- ②供給体制が整っていない  
後発メーカーのなかには、生産体制が十分でないメーカーもあり大量の需要に対応できず、欠品を起こす恐れもあります。
- ③情報量に限界がある  
医師に情報を伝える新薬メーカーのMR(営業職)が1,000人規模なのに対して、後発メーカーにはその10分の1程度しかおらず、医薬品情報の提供が十分な場合があります。
- ④日本と欧米での医療事情の差異  
日本と欧米では医療事情が全く違い、例えば、アメリカでは医療保険が極端に限られているため、莫大な医療費が請求されます。そのため、少しでも安いジェネリック医薬品を求める人が多いのです。日本では医療保険制度が充実しているため、新薬でも十分に対応できる環境にあります。

新薬の開発をストップさせずに安全なジェネリックが使えるような制度、法律の見直しは今後の日本でのジェネリック

医薬品の普及に大きく影響してくるでしょう。

### ジェネリック医薬品普及の取り組み

現在、日本では医療費抑制のため厚生労働省主導でジェネリック医薬品の普及が進められています。厚生労働省では、品質、安定供給、情報提供等についてのジェネリック医薬品の信頼性を高め、医療関係者や患者が安心してジェネリック医薬品を使用できるように、国や関係者が行うべき取り組みを明らかにした「後発医薬品の安心使用促進アクションプログラム」を、平成19年10月に策定しました。「平成24年度までに、数量シェアを30%



### ジェネリック医薬品の問題点

(現状から倍増)以上」という政府の達成目標を掲げて推進してきました。今年度からはさらに「後発医薬品の二層の使用促進の為の新たなロードマップ」が実行され、さらに継続されようとしています。

### ジェネリック医薬品を処方してもらうためには?

現在、ジェネリック医薬品の普及は進んでおり、全国の病院・診療所・保険薬局で処方・調剤されています。興味のある方はかかりつけ医や薬剤師に相談してみることをおすすめします。

※一部、ジェネリック医薬品を採用していない医療機関もあります。



### ジェネリック医薬品に変更できる処方箋

2012年4月から処方せんの様式が変わり、患者さんがさらにジェネリック医薬品を選びやすくなりました。「変更不可」という欄ができて、「二つのお薬に対してジェネリック医薬品に変更しても良いか、医師が判断しチェックします。処方せんの変更不可」の欄に医師のチェックが無い場合は、薬局でジェネリック医薬品に変更できます。薬剤師にご相談ください。



お薬に関するご相談は…  
**(社)広島県薬剤師会 おくすり相談電話**  
Tel. **082-545-1193** **相談無料**  
◎受付/10:00~15:00(月~金曜日※祝日、お盆休み、年末年始を除く)  
薬・たばこなどの誤飲時の応急処置に関するご相談は…  
**(社)広島県薬剤師会 広島中毒119番**  
Tel. **082-248-8268** **相談無料**  
または**フリーダイヤル0120-279-119**  
(ただしご利用は県内から、一般電話と携帯、PHSのみ有効)  
◎受付/9:00~17:00(月~金曜日※祝日、お盆休み、年末年始を除く)

